

2. 多良古墳群

	タイトル	意見等
1	多良古墳群	YouTubeを見ていまして、海部郡海部町多良に多良古墳群が存亡の危機にあることを聞きました。多良古墳群は1号墳の前方後円墳と2号墳の円墳だけを残し、あとの3号墳から5号墳については準高速道路の建設に伴い取り壊しの予定であることを聞きました。それ以外に方法がないのであれば、まだ納得が行きますが、話を聞いていますと、山上に古墳があるため、鳴門市の大代古墳と同様にトンネルの建設をすれば、古墳が保存出来るようです。徳島県には古代の宝が沢山眠っています。自分達の住んでいる町にどれだけの宝が眠っているという自覚なしに、既に国と県の話し合いによって決められたから仕方ないではなく、やり方は無数にあります。是非、徳島県に眠る古代史遺産を保存するためにも、高速道路建設の計画見直しについて、再度ご検討されることを要望致します。
2	多良古墳群の一体的保存依頼	動画、「存亡の危機！多良古墳群」を拝見し、意見を述べさせていただきます。 トンネルの利用などにより、多良古墳群（1～5号墳）の一体的な保存が実現されることに、心より賛同いたします。 これらの古墳は極めて貴重な文化財であり、後世にしっかりと継承していくべきものと思います。 また、近年注目が高まりつつある阿波古代史をさらに盛り上げ、徳島県全体の活性化に繋がる観光資源として、多良古墳群の保存、そして整備・活用が進められることを強く願います。
3	多良古墳群について	徳島県海陽町で建設が進む阿南安芸自動車道の整備により、貴重な歴史遺産「多良古墳群」が破壊されようとしています。この古墳群は2024年春の試掘調査で確認されたもので、古墳時代初期(3世紀ごろ)とみられる前方後円墳と円墳、計5基から構成され、尾根上に連続して築かれた全国的にも極めて珍しい構造を持ちます。特にそれぞれの墳丘の違いが、時代の移り変わりを物語る貴重な手がかりとなっており、日本の古代史に新たな知見をもたらす可能性を秘めています。現段階では古墳時代前期とされていますが、出土物の本格的な分析はまだ行われておらず、弥生時代末期までさかのぼる可能性もあるとの指摘もあります。是非とも専門的、科学的な再調査を実施し、正確な年代と歴史的価値を改めて評価して頂きたいと願っております。しかし現在の道路計画では、3号墳～5号墳がルートに重なっており、取り壊される方向で進んでいると報じられています。防災と地域発展のために道路整備が必要であることは理解していますが、文化財の保存と公共事業の両立は決して不可能ではありません。ルートや工法の再検討により、両立は十分可能だと考えます。どうか多良古墳群を一時的な障害物としてではなく、徳島県が未来に誇れる歴史資産として捉え、保存と活用のためのご判断を賜りますよう強くお願い申し上げます。